歩いて発見。谷田部街道めぐり

歴史編 其ノ弐

谷田部海軍航空隊記念碑
（筑波学園病院内）

A 谷田部神社

飛行場内にあった「航空神社」は、戦後の混乱の際の遷座を経て、飛行場橋の近くの高速道路脇付近に移転し「谷田部神社」となっています。

B 谷田部藩の陣屋（じんや）跡地

谷田部十字路を東に折れると左手方向（北）に谷田部藩の陣屋（現谷田部小学校）、少し進むと右手に八幡宮への道、さらに道は左・右に折れる城下町の風情があります。この間の左手に八坂神社への参道があります。この神社は7月の谷田部地区の祇園祭を行う神社です。

筑波郡役所
（谷田部藩の陣屋跡地）

C 布施（ふせ）街道

千葉県柏市根戸から同市布施、七里ケ渡し、守谷市、つくばみらい市、つくば市谷田部を経て土浦市中高津で水戸街道に復する街道です。

D 搦手（からめて）橋

谷田部藩陣屋から搦手（裏方）の谷田川にかかる橋で、ここまでが内町という町内、西岸には新栄館という劇場がありました。この橋を渡ると台町（かつては大町）という町内です。かつてこの辺りは谷田川の水害の多い所でした。内町と同様に宿屋・店もあったのですが、国道354号の開通もあって人の流れが変わり寂しくなりました。

布施街道
通横場道標

E 帝国海軍谷田部飛行場跡

通横場から南に進むと今泉集落、通横場を過ぎると国道354号線と交差します。ここから少し東の国道には農林団地（帝国海軍谷田部飛行場跡）への北の入口交差点があります。（東の入口は国道408号側）この軍用飛行場跡地は谷田部町、小野川村、茎崎村に及び広大な地域で、開拓地を経て現在の研究団地になったものです。

この先の街道は今宮神社がある美谷、筒花、中内、舘野、赤塚と続きますが、ここも谷田部藩の領内です。この辺からの街道は国道354号（旧県道土浦野田線）や研究学園都市建設の影響もあって、つくば市下広岡（旧九重村）までは昔の道は寸断状態となっています。

F 飛行場橋

常磐高速道路に架かる橋で、農林団地と農場と呼ばれる集落を結びます。

霞ヶ浦海軍航空隊の補助飛行場として建設された飛行場が、戦争の終結後の農家の入植で農場と呼ばれるようになりました。海軍航空隊の施設の跡も残っていたが、その後の筑波研究学園都市建設により入植農家は移転させられ、現在の農林団地となった。そして常磐高速道路の建設により分断された地域を繋ぐ橋が建設され、飛行場橋と名付けられました。

飛行場建設～入植～研究学園都市建設～高速道路建設と著しく変容し、今では、大正期以前の姿はほとんど残りません。昭和の痕跡も地名や隣接する今泉、南北中妻、羽成等に残るのみで、基地関連施設の大部分は、戦後処理で取り壊され（一部は病院となったが現存せず。）基地内の竜巻山等は入植・開拓で、退避壕、訓練用プール、コンクリート舗装路等やボデスマ（布袋沼）は農林研究団地建設で、サゲスマ（鷺沼）や水田も（残存もあり）高速道路建設で消滅・減少しました。

谷田部航空隊本部（昭和15年頃）

G 新栄（しんえいかん）館

昭和30年代まで新栄館という劇場が谷田川の搦手橋の西のたもとにありました。この時代はテレビの普及前でしたので、庶民の娯楽としての映画・旅芝居が上演され、近隣の玉川館とともに谷田部市街地繁栄のシンボルでした。テレビの普及などで戦後が終わった時期、玉川館より早く廃館となりました。

H オセゲンサマ

台町の医王寺の東の坂を登り、市道を横断するとゴミ集積場の脇に盛土が見えてきます。これが「オセゲンサマ（浅間神社）」です。かつては社があり、境内は近隣の子供達の遊び場でした。

明治時代の神社合祀で整理され地元の名家の所有地となりましたが、地元の社と祀られ、土地区画整理事業で市の公園になったものです。

I デーシサマ

台町町内では、1960年代まで「ヤクシ（医王寺）」の「オシャカサマ（灌仏会）」と並ぶ「デーシサマ（大師様）」というお祭りが開かれていました。

現在の台町公会堂の位置に円龍寺という寺があり、廃寺後の本尊は近隣の長徳寺に安置されています。

傍に神社があるので、
明治以前は寺と神社が繋がった神宮寺を
構成していたと思われる。

J 電鉄（でんてつ）橋

阿見電気軌道（後に常南電気鉄道）が、阿見村の霞ヶ浦海軍航空隊の人員輸送を行うため1926年に計画された路線跡にある橋です。

茨城県新治郡土浦町（現・土浦市）の土浦駅と稲敷郡阿見村（現・阿見町）の阿見駅の間を結んで開業していた路面電車路線で、元々は土浦駅から同航空隊霞ヶ浦飛行場を経て荒川沖駅へ至る計画で、さらに土浦駅～水海道駅間の谷田部線も計画されていました。

しかし、既に1923年から並行してバスが運行され、乗客も減少したことや地元の銀行の支援が得られず、新治郡土浦町根崎～筑波郡谷田部町間が指定期限までに竣工しなかったため、軌道特許が取消となり、1938年2月末全線廃止になりました。

全線廃止の原因となった未成線の谷田部線は、一部用地が確保され、谷田川をはさんで東西の区間で部分着工（土盛り）されました。その土地は現在道路となっています。後に谷田川に懸けられた（着工当時には橋はなし。）橋が「電鉄橋」と命名されました。

車両と車輪を
イメージした柵干。

線路予定地が切通しの道路と
なっているが、行き止まりである。

K 愛宕（あたご）神社への参道

小渡山医王寺への道の坂を上ると左手に急な階段が現れます。これが火産霊命を祭った愛宕神社への参道です。坂を登りきるとそこは台町十字路です。右（南）へずっと行けば天井絵で有名な羽成観音堂、大師講の羽成山普賢院実城寺、若栗・牛久市、左方は一度谷田部藩領を離れるので、まっすぐ東に街道は台町の町内を進みます。サイエンス通りを横断すると谷田部地区東端の台町町内を過ぎ、旧小野川村の通横場という集落に入ります。（道標などもあります。）

急な階段の先には、
高台からの眺望が
待っている。